



「ちとせ」が変われば「みらい」が変わる

ちとせみらい通信

皆さま輝かしい新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。早いもので私も議員になってから3回目のお正月を迎えました。まだまだ至らぬ点多く、市民の負託に応えきれていない部分も多いことと存じますが、議員として必要な知識と経験を蓄えながら、少しでも頼っていただける存在でありたいと精進しております。

今後とも、暖かい目で叱咤激励をいただければ幸いです。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第4 定例会一般質問

12月8日に一般質問を行いました。今回の質問のテーマは新千歳空港と青葉公園に絞りました。

質問項目1-(1)、2020年度から運営される道内7空港(新千歳、函館、旭川、帯広、釧路、稚内、女満別)一括民営化について、現在準備が進められており、来年度はこれら7空港を一括運営する特定目的会社(SPC)が決定する予定です。空港民営化については、滑走路と空港ビル、駐車場を一体的に運営することによるコストダウン、また着陸料を自由に設定できることで、新規路線誘致などの期待も膨らみます。しかしながら道内の空港では新千歳だけが唯一の黒字運営であることから、一括民営化後にどのような運営形態になるのか、新千歳空港を中心として考えたときに果たして7空港一括民営化のスケールメリットがあるのか等について、地元の市長としての認識を問いました。

次に、1-(2)では、空港民営化まで、あと2年余り、北海道新幹線開業まで、あと12年余りというタイムスケジュールの中で、これからの社会情勢や交通インフラ体系の変化に即して、どのように産業振興や観光振興の施策展開をするのか、また、民間投資や外部の知恵の活用を積極的に図っていく考えはないのか、新千歳空港の利用促進のために、周辺自治体との連携や情報共有について、市としての取り組みや考えがあるのか等を訊ねました。

1-(3)では、交流空白地域との連携強化を訴えました。平成27年に初めて2,000万人を突破し、特に国際線は前年比22%増と大きく躍進をする新千歳空港ですが、乗降客数の約半数を占める羽田線を除けば、1日当たり10便以上のフライトがある路線は、成田21便、大阪伊丹11便、関空16便、中部18便、仙台16便に限られます。エリア別の道内への観光入り込み客数を見ると、東北が2%、北陸信越が1%、中部5%、中国1%、四国1%、九州3%、沖縄0%で、関東、関西以外の多くのエリアが交流空白地域となっています。今後、北海道に更なる観光需要をもたらすためには、LCCなどを活用し、これら交流空白地域との間に新たな需要奮起が必要と考え、市長に見解を質しました。さらに、1-(4)では、開港91周年を迎える新千歳空港の価値を高め、発展していくために必要なことについて、山口市長の所見を伺いました。

次に、質問項目2で青葉公園周辺一帯の活用について尋ねました。青葉公園は、千歳神社の境内から支笏湖にまでつながる102.3ヘクタールもの広大な自然林に囲まれた、千歳市民にとっては、たいへん思い入れの深い公園です。私は8月に数人の有志と共に青葉公園から林東公園にかけて散策してみましたが、手入れの行き届いていない箇所が多数見つかると、高齢者や幼児には危険と感じられる場所もありました。

青葉公園には、樹齢数百年の巨木や稀少な動植物も数多く生息しており、当日もエゾリスやエゾシカの群れを目撃しました。大自然の一部を切り開いた類いまれな都市公園として、歴史においても、規模においても、完全に一線を

1 新千歳空港の利用促進について

- (1) 道内7空港一括民営化
- (2) 空港を活用した経済戦略
- (3) 交流空白地域との連携強化
- (4) 新千歳空港に対する市長の政治姿勢

2 青葉公園周辺一帯の活用について

- (1) 市長の認識
- (2) マスタープラン策定の必要性

画す存在であり、また、神社に連なる神聖な鎮守の森でもあることから、他の公園と同格に扱うのではなく、まちづくりや都市計画レベルで議論すべきものと考えるところです。この点について市長の認識を確かめました。



2-(2)では、林東公園を含む青葉公園周辺の活用方法についてグランドデザインやマスタープラン策定の必要性を訴えました。また、国は積極的に都市公園法を改正し、現在では、保育所や社会福祉施設の設置も可能とする規制緩和や公共管理制度、いわゆるPark-PFIによって民間資本導入を積極的に促し、カフェやレストラン等の営業収益を公園整備に活用するなどの取り組みも可能になっていると聞かすが、このような制度を使って青葉公園の利活用を促すことができないかをたずねました。紙面スペースの関係上、市長からの答弁は割愛いたしますが、詳しくは議会中継

にてご覧ください。

沖縄で「交流と連携フォーラム2017」に参加



去る9月30日、私は、沖縄県那覇市で開かれた交流と連携フォーラム2017に参加をまいりました。

この会議は、主に、沖縄、九州地方の団体や、空路でつながりのある全国の空港周辺自治体関係者、企業関係者などが多数集結した中で、戦略的な空港間の交流と連携をテーマとして、昨今、台頭著しいLCCなどの安価な交通機関を活用し、全国各地と、多様な交通ネットワークを介してつながることを目的として開かれたものです。

私も、このフォーラムの中で、新千歳空港の将来展望と連携空白地域との交流促進を主題としたプレゼンテーションをさせていただきました。冒頭、「九州・沖縄と四国の全県を足してもまだ北海道の面積の方が大きいのですよ」とお話ししたところ、会場からどよめきが起こりました。そのくらい、彼の地の方々にとって北海道は未知なる場所なのです。つまり、言い換えれば新たな観光需要として掘り起こしが可能な地域でもあります。現在、新千歳と沖縄県那覇を結ぶ路線は季節運航で、九州と結ぶ定期路線も福岡しかありません。しかし、現在ではLCC(格安航空会社)の台頭も著しく、成田や関西経由で片道1万円を切ることも可能となってきました。近年は中国を中心としたインバウンド需要が高まり、国際旅客の伸びが著しいのですが、LCCを利用する前提で考えれば、国内の交流空白地域同士で新たな観光需要を生み出すパッケージを創ることは可能だと訴えさせていただき、会場にいらした参加者からも多くの賛同をいただくことができました。

市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとを是非北山けいたにお聞かせください。



メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>



「北山けいた」は議会議員も公僕であり、市民の御用聞きであるべきと考えています。議員としての取組みをホームページやブログなどで発信しています。

また、私の考えに賛同して一緒に行動していただける方を広く募集しております。

お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。